

限定の御朱印用紙を奉納

那智勝浦RC那智山記念の年に



記念御朱印の用紙を奉納後の例会で記念撮影
11月6日、那智勝浦町の熊野那智大社

那智勝浦ロータリークラブ（那智勝浦RC・後誠介会長）は6日、創建1700年を迎えた熊野那智大社（男成洋三宮司）と西国三十三所草創1300年の記念事業を兼ね中の那智山青岸渡寺（高木亮享住職）に細密鉛筆画を配した記念御朱印の用紙をそれぞれ2000枚奉納した。

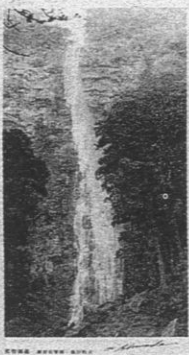
那智山青岸渡寺
西国三十三所草創一千三百年記念



那智山青岸渡寺の「本堂」



熊野那智大社の「那智御瀧」



那智勝浦RCが2012年に創立60周年を迎えることから、記念事業を社寺の記念の年に合わせて前倒して実施した。那智大社には鉛筆細密画家の篠田教夫さんが那智の滝を描いた「那智御瀧」、青岸渡寺には画家の諏訪敦さんが青岸渡寺本堂を描いた「本堂」が贈られた。どちらも鉛筆による精緻な絵。社寺が絵画を配置した御朱印を頒布するのは全国で初のことという。

那智勝浦RCのメンバーらが那智大社拝殿と青岸渡寺本堂で奉納し、社寺から感謝状が贈られた。奉納の後、那智大社社務所で記念例会が開かれた。後会長は篠田さん、諏訪さんの熊野への熱い思いと理解に感謝し、「記念御朱印の用紙

が熊野の霊場の魅力をごらに広める役割を果たしてほしい」とあいさつ。男成宮司は「秋から拝殿を改修する。1700年記念事業の浄財としてあてたい」と語り、高木亮英副住職も「画期的なアイデア。浄財を生かしたい」と話した。

記念御朱印はいずれも2000円。青岸渡寺では頒布を開始。那智大社では2000枚のうち1700枚にナンバーを入れて今月15日（土）から限定頒布する。

篠田さんは1947年神奈川県小田原市生まれ。驚異的な細かさで表現した鉛筆画で知られ、『神と仏の道を歩く』（集英社新書ヴィジュアル版）で作画と監修を担当。後会長との縁で今回の企画が実現した。諏訪さんは1967年北海道生まれ。2011年に諏訪市美術館で作品展を開催し、NHK「日曜美術館」で特集が組まれる。同年絵画作品集「どうせなにもみえない」（求龍堂）を刊行。16年NHK・E TV特集に出演。（須川達也）